

洛北SSHだより

Super Science Highschool

2011年 5月13日発行 第1号

・洛北SSHガイダンス
高校1年中高一貫コース
高校1年Ⅱ類文理系
実施日 4月26日(火)5, 6限

洛北SSHガイダンス

～国際化時代におけるリーダーの育成を目指して～

特別講義 「“免疫”味方？ それとも敵？」

講師 京都大学女性研究者支援センター センター長

京都大学大学院生命科学研究科 教授 稲葉カヨ 先生

4月26日(火)、今年度の最初の洛北SSHの事業として、高校1年の中高一貫コースとⅡ類文理系の生徒を対象にガイダンスを行いました。特別講義として、京都大学女性研究者支援センターのセンター長で京都大学教授の稲葉カヨ先生から「“免疫”味方？ それとも敵？」というテーマで御講演をいただきました。

まず最初に、先生が所属しておられる女性研究者支援センターの説明をいただきました。日本の女性研究者の割合は欧米に比べ非常に低く、韓国と比較しても低いそうです。そこで、女性研究者の環境を改善し、より良い研究を行うために、各大学で女性研究者支援センターのような組織を作り、活動しておられるそうです。

先生の御専門である免疫に関する内容では、モナリザの絵やルノアールの写真から関節リウマチなどの自己免疫性疾患免疫の事例を挙げ、免疫は体を守る働きがある一方、免疫機構が破綻すると病気を引き起こすことを説明されました。その後、免疫応答の制御についての基本的な概念を説明され、血液型や花粉症など免疫に関わる事例の仕組みをとってもわかりやすいスライドで紹介されました。また、近年増加しているアレルギーは免疫システムだけの問題ではなく、生活習慣や環境、ストレスなどが相互に関係して引き起こされていることに言及されました。

聴講した生徒たちは、女性研究者として第一線で活躍されている稲葉先生の講義に大変興味を持って聴き入っていました。講演を通して、生体が微妙なバランスのもとで自己を防御していることが感じ取れたのではないのでしょうか。

SSHガイダンスでは、本校教員よりSSH事業に関して、研究開発の内容、教育課程、総合的な学習の時間「サイエンス」、学校設定教科「洛北サイエンス」やSSH事業の年間計画を説明しました。これから行われるSSHの様々な行事について、とても関心を持って聴いていました。全国SSH生徒研究発表会の様子をDVDにて鑑賞した後、サイエンス部の種々の活動を紹介し、対外的な発表につながる研究を行いたい生徒は、ぜひ入部するよう説明し、しめくくりました。

Ⅱ類文理系のガイダンスでは、昨年度の筑波サイエンスワークショップに参加した生徒が、その体験を発表しました。筑波サイエンスワークショップとは筑波大学とその周辺にある研究施設を利用した取組で、本校を含めたSSH対象の3校が合同で行っている2泊3日の行事で、毎年高校1年生の5名の生徒が参加しています。今回、先輩の話聴いて、自分たちもぜひ参加したいという意欲が高まったことでしょう。

